


伊藤喜三郎の世界





觀世音南無佛與佛有因與佛有緣
佛法僧緣法緣我淨願念觀音
昔者念觀世音念念從心起念念不離心

沙
三喜庵


如見五顯經皆空慶一切苦厄舍利子色不
 異空空即不異色色即空即色是也



菩薩摩訶薩
 法門三喜庵
 印



青面金剛

沙阿三喜庵



降三世魔王圖



三喜庵

十一面觀音像



沙門王喜花



仏陀の微笑み

なんと慈悲深いやさしさに満ちた微笑みでしょうか。世の中のありとあらゆる苦しみも、この微笑みによってすべて救われる。日本画の大家・伊藤三喜庵先生の願いやメッセージがこの作品には込められているように感じます。

物が豊かになる一方で、人の心にはさまざまな欲が生まれ、それとともに妬み恨み憎しみといった、悲しい心に苦しむ人が多くなりました。しかし、どんなに急激に時代が変わろうとも、人の心の中には普遍的な仏性があり、それが必ず輝き出す未来がある。安心しなさい。お釈迦さまの微笑みは、そんなふうに私たちに語りかけてくださるように思うのです。

伊藤先生の作品と向き合うとき、まことに謙虚に心穏やかな気持ちになることができます。そして、物に振り回されることのない、真の自分の生き方を教えていたたいいことがあつたのです。



観音様とお弟子たち

現代日本を代表する建築設計家でもあり、日本画の大家でもある伊藤三喜庵先生は、そのライフワークとして、魂が包み込まれるような墨絵仏画を何百点も残されました。その中の数十点は、横浜善光寺発行の機関誌『成寿』の表紙絵、また文中挿絵として使わせていただき、全国の読者の皆様にも、長年親しまれて参りました。観音様とお弟子たち——この絵皿の絵も、きっと見覚えのある方が多かろうと思われれます。伊藤三喜庵先生が描く観音様はどれも、どんなにその時の心が荒れていようとスワツと静めてくださるような慈愛に満ちたものばかりです。特にこの作品は可愛らしさの中にも、三十三のお姿に身を現じ、大慈悲の心を持って私たちを苦しみから救ってくださる観音様のお姿が見事に描かれている、まことに伊藤先生らしい墨絵の一つ。眺めているうちに、いつしか自分の心がお弟子たちの一人に溶け込み、教えを宇宙まで伝えていきたいような、そんな気持ちになっていることに気付かされることでしょう。